

講習2 企画・準備と実態調査

一般財団法人 計量計画研究所

研究本部 交通・社会経済部門

廣川 和希

企画・準備・実態調査とは

0年目

企画・準備

1年目

実態調査

2年目

現況分析、将来交通量の予測

3年目

計画策定、施策提案（マスタープラン等）

4年目～

特定の都市交通計画・施策立案

講習2のポイント

▼ポイント1

0年目（企画・準備）と1年目（実態調査）で行う
大まかな項目、内容を把握、理解する

▼ポイント2

発注者（行政職員）にとってのポイントを把握、理解する

※本資料は発注者向けの内容で構成しています。

講習2の内容

1. 0年目（企画準備）の概要
2. 1年目（実態調査）の概要
3. 企画・準備と実態調査のポイント
4. まとめ

“発注者視点”のポイント

1. 0年目(企画準備)の概要

企画・準備の概要

▼ 3年間(実態調査～計画・施策提案)全体を企画する

- ✓ 目的は？ (何のためにPT調査を行うのか)
- ✓ 成果は？ (どんな成果(アウトプット)を示したいか、期待されるか)



多くの主体が関係する(調査費もかかる)
目的と成果(ゴール)をしっかりと**設定+共有**することが重要

▼ 1年目(実態調査)に向けた企画・準備を行う

- ✓ 調査規模、対象地域は？
- ✓ どんなデータを収集するか(どんなデータが必要か?)
- ✓ 調査体系は？(トリップ調査 + 補完調査、付帯調査、ビッグデータは?)
- ✓ 調査方法は？(郵送? Web?)
- ✓ 必要な事前準備は？(特に**抽出、PRなどの関係者協議**は重要)



実態調査を行う上で、決めることが多くある
0年目で**諸々を決めておく**ことが重要

企画準備の検討事項(例)

- 1) 計画課題の設定
- 2) 実態調査の企画
- 3) 実態調査の設計
- 4) 分析・将来予測に向けた準備
- 5) 実態調査に向けた準備
- 6) 全体スケジュール・検討体制

1) ~6) について、次スライドから解説

1) 計画課題の設定



▼概要

- ✓ 都市圏の今とこれからの課題を設定、明確化する
→ 計画課題 = 計画（アウトプット）に向けた観点
- ✓ 各都市圏の特性、課題に応じて設定する
- ✓ 調査の実施目的ともリンクした設定が必要

● 計画課題の例：

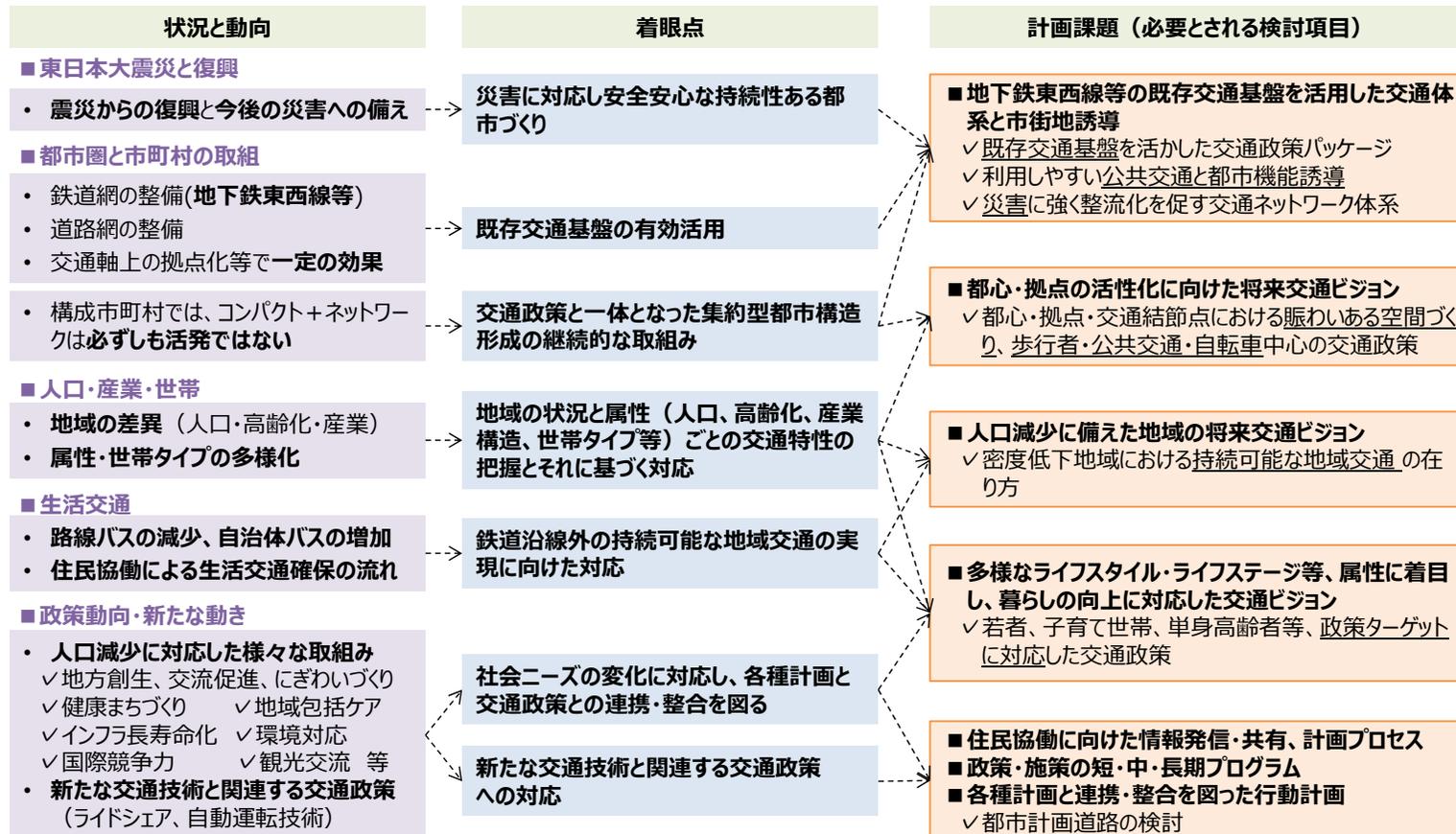
- 集約型都市構造を支える交通体系の構築
- 中心市街地活性化に向けた交通体系の確立
- 人口減少、高齢化を踏まえた公共交通計画
- 公共交通の利用促進、活性化
- 移動困難者に対応した移動手段確保
- 災害に強い安心・安全なまちづくり

1) 計画課題の設定

都市圏の現状、近年の動向から
計画課題を設定

▼計画課題の設定例（第5回仙台PT調査（2017～2020））

【目標】 高齢社会・人口減少社会における持続可能な都市圏の形成
交通体系と市街地が一体となった集約型都市構造の構築



2) 実態調査の企画



▼概要

✓ 2年目以降、計画課題を検討するために、翌年度（1年目）にどのような実態調査を行うか（=どのようなデータが必要か）を企画、検討する

- ・ 計画課題を検討するために必要なデータは？
- ・ 必要なデータを収集するため、どのような調査を行う？
- ・ 活用可能な既存データはどのようなものがある？

●実態調査の構成例：

- ・ トリップ調査（実態調査の“核”）（属性×トリップ）
- ・ 付帯調査（例：意向調査）
- ・ 補完調査（例：域外居住者の都市圏内流動）

アンケート調査、ビッグデータ活用など

2) 実態調査の企画

▼既存データ（統計データ・ビッグデータ等）の例

- a. **交通統計調査データ**（道路センサス、大都市交通センサス等）
- b. **観測交通量データ**（警察トラカン等）
- c. プロブカーによる**旅行速度データ**（ETC2.0、民間データ等）
- d. 交通事業者の**利用者データ**（駅・バス停利用者数、交通系ICカードデータ等）
- e. 携帯電話等による**人の移動・滞留データ**

2年目の現況分析で使いそうな（使えそうな）データがないか
（現況分析は、トリップ調査データ以外にもフル活用！）

2) 実態調査の企画

▼交通関連ビッグデータの例

- (1) 携帯電話基地局データ
- (2) 携帯電話GPSデータ
- (3) プローブデータ (自動車、バスなど)
- (4) Wi-Fiアクセスポイントデータ
- (5) 交通系ICカードデータ

交通関連ビッグデータを用いた代表的な分析は、「講習3：現況分析」で紹介

3) 実態調査の設計



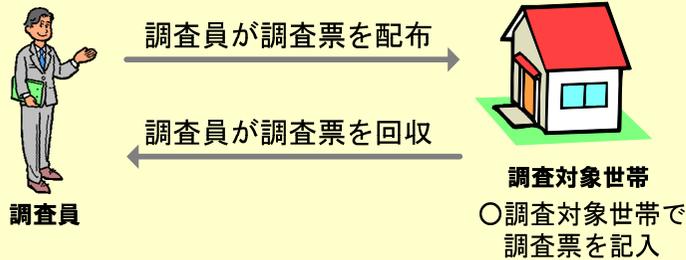
▼ 概要

- ✓ 「**トリップ調査**」を設計する **※実態調査の“核”**
 - ・ 調査対象圏域は？（日常生活圏、検討範囲、コストとのバランス）
 - ・ 調査規模は？（標本率、必要な精度から設定）
 - ・ 調査手法は？（郵送配布＋郵送・Web回収 など）
（調査手法に応じた回収率想定と配布数検討も）
⇒出来れば**“プレ調査”**の実施で検証も
 - ・ 調査票は？（**調査項目**、調査票の構成、デザインなど）
（Web回収の場合、画面設計も）
- ✓ 「**付帯調査**」を設計する
 - ・ トリップ調査で把握できないデータとして何を調査するか？
（トリップ調査と**一緒に実施（調査票等を配布）**するもの）
- ✓ 「**補完調査**」を設計する
 - ・ トリップ調査で把握できないデータとして何を調査するか？
（トリップ調査とは**別に調査を実施**するもの。データ入手以外。）

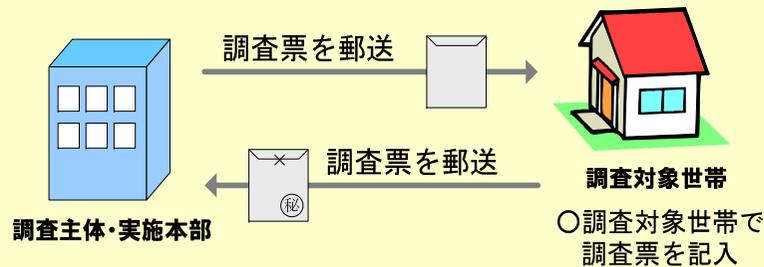
3) 実態調査の設計

▼調査手法の種類

<訪問留置・訪問回収>

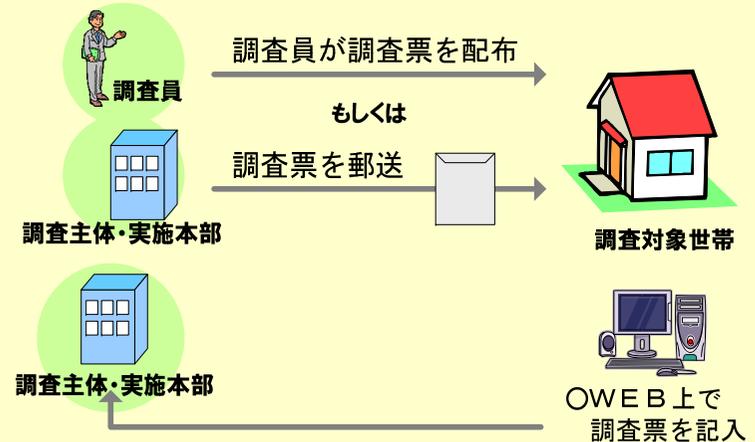


<郵送配布・郵送回収>



組合せ型の「郵送配布・郵送またはWeb回収」(回答者が回答方法を選択)なども

<WEB回収>



3) 実態調査の設計

▼トリップ調査の調査票（山形PT調査の例）

調査票	調査内容
世帯票	“世帯と個人の属性” を調査
個人票	“世帯構成員1人1人の調査日1日の動き” を調査

▼個人票（オモテ：平日用）

平成29年度 山形県都市圏バス・ソートリップ調査
個人票 平日 山形市 天童市 上山市

あなたの調査日は **10月11日 (水曜日)**

世帯票の何人目の人が

訪問先

移動内容
(出発・到着時刻、利用手段など)

▼個人票（ウラ：休日用）

平成29年度 山形県都市圏バス・ソートリップ調査
個人票 日曜 山形市 天童市 山形町 中山町 上山市

あなたの調査日は **10月15日 (日曜日)**

世帯票の何人目の人が

日曜調査
(設問は平日と同)

一般的には平日調査のみ
(山形や仙台では休日調査も実施)

3) 実態調査の設計

▼Web回答画面（山形PT調査の例）

山形広域都市圏パーソントリップ調査

世帯票【1】 世帯票【2】 個人票

下のボタンをクリックすると、それぞれの個人の入力フォームへ移動します。
[個人票](#) [2人票](#)

世帯票【2】

あなたと同じ住居にお住まいの方全員についてお答えください。
 回答が終わりましたら、画面下のボタンをクリックしてください。

個人の整理番号 1人目

性別 1. 男性 2. 女性

年齢 (平成29年10月1日現在) 週 3 5 歳

世帯主との関係 世帯主が複数いる場合は、年長者を世帯主として回答してください。
 1. 本人

自動車の運転免許 (18歳以上の方のみ) 1. 持っている

外出する際に、家族等の付添いが必要としますか (5歳以上の方のみ) 3. 不要

公共交通のICカード (Suicaやicscaなど) を持っていますか (当てはまるもの全て) 1. Suica 2. icsca 3. その他 4. 持っていない
※icsca (イカスカ) は、仙台市交通局が発行するICカードです。

就業、就学状況 1. 有職者 (正社員・正職員)

就業先 (主たる勤務先) の所在地 1. 自宅と同じ (自営業など) 2. 自宅以外の所在地
所在地は番地、号までお答えください。
 自宅から直線距離などに近い別荘型は、所属している企業・事務所などの所在地もお答えください。

郵便番号で住所検索 地図で住所検索

都道府県 市区町村 町字/番地
 選択: 選択: 例) ○○町1丁目2-3 ○○町1-2-3 大字○○2-3 など

産業 [業種別](#) 選択してください

始業時刻 1. 決まっている 2. 特に決まっていない (シフト制、交代制勤務を含む)

その他の勤務先 1. ある (兼業農家を含む) 2. ない

山形広域都市圏パーソントリップ調査

世帯票【1】 世帯票【2】 個人票

平日	個人票	2人目
日曜	1人目	2人目

個人票 (場所について)

1人目の方の 10月12日 (木) の外出先についてお答えください。
 ※行った場所は、あとで追加や削除などの修正を行うことが出来ます。

当日の起床時刻と就寝時刻をお答えください。

起床: 選択 時 選択 分
 就寝: 選択 時 選択 分

その日に外出しましたか?
 1. 外出した 2. 外出しない

1日のはじめにいた場所 (午前3時以後の場所) についてお答えください。
 1. 自宅 2. 勤務先
 4. 上記以外の場所

1日のはじめにいた場所をご確認ください。

住所、駅名、施設名で検索

検索

【所在地】
 都道府県 市区町村 町・丁目/番・番地/号
 選択: 選択: 例) ○○町1丁目2-3 ○○町1-2-3 大字○○2-3 など

【利用した施設の名前・店名など】

【ポイント】

企画準備年から検討が必要

→既存システムを活用する場合でも数ヶ月程度は必要。
 ゼロから構築する場合は、企画準備年からの準備が必須

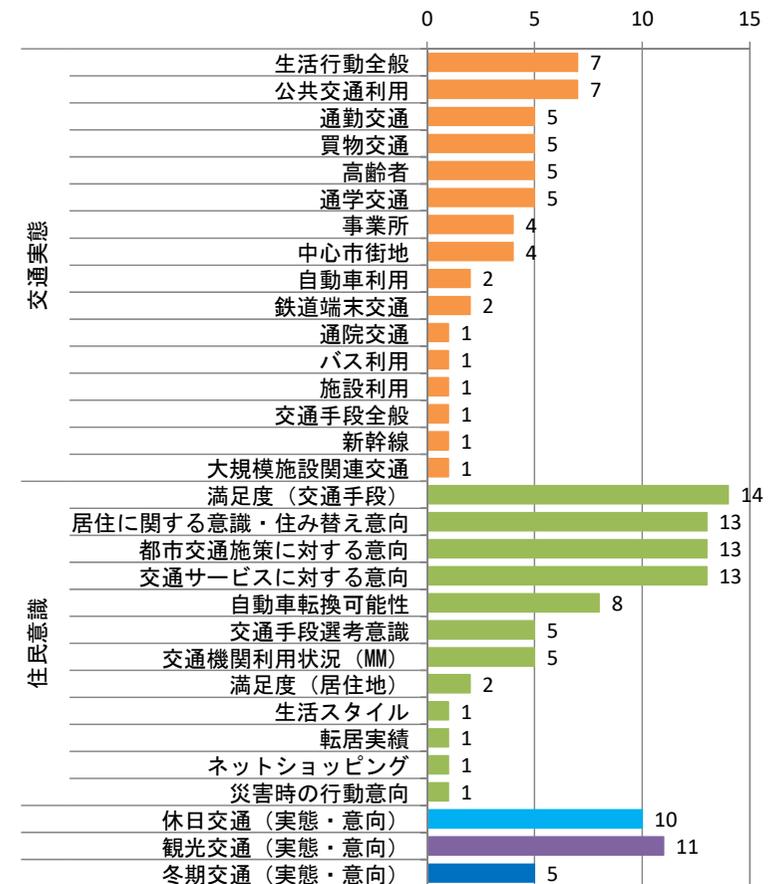
3) 実態調査の設計

外出頻度調査については、「事例紹介3：近年の生活行動について」でコロナ禍の行動変化などの事例を紹介

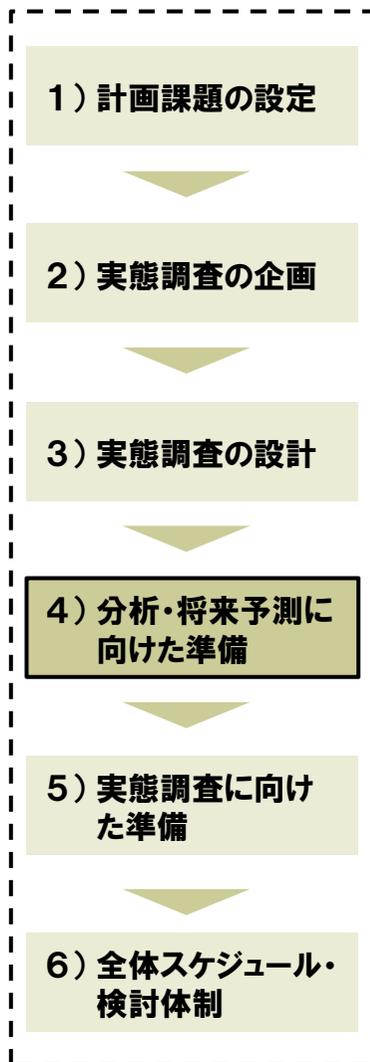
▼付帯調査の例（2000年～）

- **交通実態調査**（外出頻度調査等）
 - － 目的や手段に特化した調査（通勤、買物、通院、公共交通、自動車）
- **住民意識調査**
 - － 満足度
 - － 住み替え意向
 - － 交通サービス
 - － 自動車転換可能性
 - － モビリティマネジメント(MM)
- **休日交通**
 - － 中心市街地の買物が中心
- **観光交通**
 - － 沖縄中南部ではPP調査を実施
- **冬期交通**
 - － 旭川、道央都市圏等で実施

■ 調査内容ごとの件数（39都市圏）



4) 分析・将来予測に向けた準備



▼ 概要

- ✓ 2年目以降に向けて、必要な準備を行う
 - ・ ゾーニング (ゾーン区分) をどうするか？
→ 分析、将来予測を行う単位を想定して、調査時に設定
 - ・ 将来予測 はどのように行うか？
→ 計画課題の検討に対応した **需要予測手法を検討**
→ トリップデータ以外に必要なデータを確認しておくことが大切

● 仙台PT調査の例

ゾーン区分	概要
大ゾーン (56ゾーン)	・都市圏全域の概況を把握する単位
中ゾーン (399ゾーン)	・現況集計、分析等の基本となる単位
小ゾーン (1,908ゾーン)	・政策評価、将来予測の単位 ・町丁目+大字または小字単位



5) 実態調査に向けた準備



▼概要

✓ 次年度1年目に向けて、必要な準備を行う

- 市町村の**住民基本台帳データ**の利用事前依頼（調整）
→自治体ごとにルールがあり調整に時間がかかる(**1年目では遅い**)
→電子データの抽出可否、調査への活用可否などを確認
- **個人情報保護の遵守と対応**
→対象圏域の市町村の個人情報条例や内部規約への適用
→次年度の実態調査で仕様書に盛り込むなどの対応を、住基台帳データ提供の市町村へ示すことも
- **回収率向上に向けた検討**
→粗品（ボールペン等）を配布時に同封、景品を抽選で配布 等
→**首長の写真やサイン**の使用可否
→調査票の返送先（実施主体、行政受領が望ましい）
→**広報計画**（ポスター、自治体広報誌、回覧板、等）
- **総務省申請の準備**
→三大都市圏は承認、その他都市圏は届出が基本
→申請は、遅くとも**承認が実査年の4月頃、届出は6月頃**

5) 実態調査に向けた準備

▼首長の写真とサインの効果（仙台PT調査の例）

この用紙は調査に必要な情報が記載されています。調査を終えるまで、大切に保管して下さい。

〒980-8570
宮城県仙台市青葉区本町三丁目8-1

宮城 太郎（仮） 様

1121234511212#

仙台都市圏パーソントリップ調査へのご協力のお願い

日頃から宮城県ならびに仙台市政におきまして、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、仙台市を中心とする仙台都市圏において、第5回仙台都市圏パーソントリップ調査を実施いたします。パーソントリップ調査は、調査日について、「どのような人が」、「いつ」、「どこからどこへ」、「どのような目的で」、「どのような交通手段を利用して」移動しているのかを調べる調査であり、調査結果は、今後の都市と交通のあり方やまちづくりの検討に活用できる貴重な資料となります。

今回、仙台都市圏にお住まいの方から無作為に抽出させていただきましたところ、あなたのご世帯に調査のご協力をお願いすることになりました。

つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、この調査の趣意をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご回答いただいた内容は、統計的に処理を行い、調査目的以外には使用いたしません。

平成29年10月
宮城県知事
仙台市長

ご回答に必要な情報

あなたの調査日（平日、休日の1日ずつ）

平成29年 平日 10月11日（水） 休日 10月15日（日）

インターネットによる回答に必要な情報

下記の期日までに回答または投函して下さい

整理番号：12345678
パスワード：a1b2c3d4

平成29年 10月23日（月）

12123451212

この用紙は調査に必要な情報が記載されています。調査を終えるまで、大切に保管して下さい。

〒980-8570
宮城県仙台市青葉区本町三丁目8-1

宮城 太郎（仮） 様

1121234511212#

本状は、11/20(月)時点で未回答の方にお送りしております。
すでに回答がお済みでしたら、再度ご回答いただく必要はございません。
行き違いになりましたことをお許しください。

仙台都市圏パーソントリップ調査へのご協力のお願い

日頃から宮城県及び仙台市政につきましまして、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、仙台市を中心とする仙台都市圏において、第5回仙台都市圏パーソントリップ調査を実施いたします。パーソントリップ調査は、調査日について、「どのような人が」、「いつ」、「どこからどこへ」、「どのような目的で」、「どのような交通手段を利用して」移動しているのかを調べる調査であり、調査結果は、今後の都市と交通のあり方やまちづくりの検討に活用できる貴重な資料となります。

今回、仙台都市圏にお住まいの方から無作為に抽出させていただきましたところ、あなたのご世帯に調査のご協力をお願いすることになりました。

つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、この調査の趣意をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご回答いただいた内容は、統計的に処理を行い、調査目的以外には使用いたしません。

平成29年11月
宮城県知事
仙台市長

なお、調査日を再設定させていただきますので、下記の平日、休日それぞれ1日の移動について、お送りしている調査票の調査日を訂正いただいた上で、ご回答をお願いいたします（調査票がお手元ない場合は、サポートセンターへお問い合わせください）。

回収率

項目	再督促前	再督促後
封書の依頼状	21.0%	29.2% (+8.2%)
再督促はがき	20.1%	23.5% (+3.4%)

知事と市長の写真とサインを物件に入ると、調査の信頼性が向上し、回収率が向上する

6) 全体スケジュール・検討体制



▼概要

- ✓ 実態調査から分析、予測、計画提案にいたる **3年間の全体スケジュール**を作成する

【留意事項】

- ・ 特に2年目の課題整理や、3年目の計画提案は、検討会メンバー間やその他関係者との **調整に時間を要する**ことを考慮

- ✓ 検討体制を調整し、立ち上げる **目途を立てる**

- ・ 行政、交通事業者、自治体、学識者・・・
- ・ 座長は？（学識者、行政など都市圏で様々）

● 仙台PT調査の例



2. 1年目(実態調査)の概要

実態調査の概要

▼ 企画・準備の検討結果を踏まえ、2年目以降に必要なデータを収集、整備する

- ✓ 事前手続き
- ✓ 実態調査の実施（トリップ調査 ほか）
- ✓ データ整備

実態調査は
秋期（10～11月）実施が多い



2年目以降の分析・計画・施策検討に資するデータを
正確かつ確実に整備していくことがポイント

2. 1年目(実態調査)の概要

講習2：企画・準備と実態調査

実態調査の概要

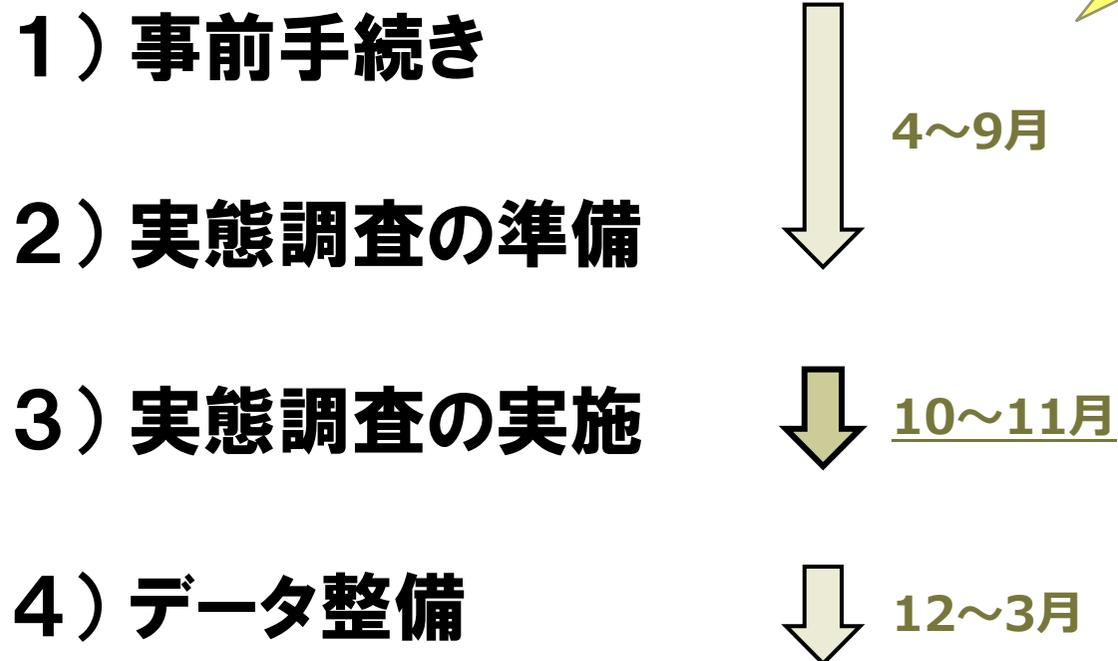
▼ 1年間のスケジュール(例)

——— 行政側が中心となって行う作業・検討
 - - - - - 受託コンサルタントが行う作業

作業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実施体制の設立	事前手続き											
実施体系の確定	●調査の体制や方針の決定											
個人情報保護方針の確定	●市町村、関係者との調整等											
調査票の作成	設計	総務省手続き				印刷	実態調査					
調査対象者名簿の作成	事前調整		抽出作業要領作成	抽出	名簿作成	実態調査						
広報活動	方法の検討			物件作成	PRの実施		実態調査					
その他調査物件作成	設計			印刷		実態調査						
実態調査	交通実態調査	全体計画の検討		マニュアル作成	調査員募集・研修	実態調査						
	付帯調査等	全体計画の検討		調査準備	調査員募集・研修	実態調査		整理・分析				
	スクリーンライン調査	調査準備			調査員募集・研修	実態調査		整理・分析				
回収調査票のチェック、修正	実査物件の作成			コーディング・エディティング・マシンチェックの準備				コーディング エディティング	データ入力・ チェック・修正	データ整備		
拡大方法及び拡大係数設定	●マニュアルの準備			●物件の準備			拡大方法検討		拡大係数設定・拡大		マスターデータの作成	
マスターファイル作成	マスターデータの作成											
総務省との協議	準備	申請	協議									

- 回収票の処理状況の把握
- 個人情報の破棄、返還

実態調査の事項(例)



1) ~4) について、次スライドから解説

1) 事前手続き

発注者（行政）が主体的に動く



▼ 概要

✓ 実態調査の実施に向けて、必要な**事前手続き**を行う。

- **総務省申請**
→三大都市圏は承認、その他都市圏は届出が基本
→申請は、遅くとも**承認が4月頃、届出は6月頃**
- **調査実施方針の決定**
→協議会、検討会等を立ち上げる（規約の作成も）
→協議会等の場で**調査実施方針を決定**する（7月頃？）

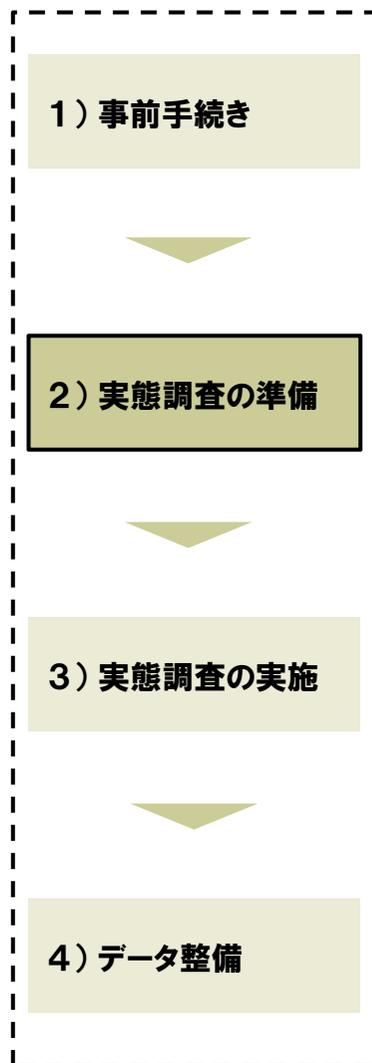
● 調査実施方針（例）

- 実態調査体系（トリップ調査、付帯調査、補完調査・・・）
- 調査対象地域、ゾーン区分
- 調査票（設問）
- 広報
- 個人情報保護方針

【ポイント】

事前手続きは0年目から準備し、4月から動く必要あり

2) 実態調査の準備



▼概要

- ✓ 秋期（10～11月）の実態調査の実施に向けて、**必要な準備**を行う。
 - ・ **調査対象者の抽出＋名簿作成**
 - 自治体の住民基本台帳から無作為に抽出（0年目に調整）
 - 抽出結果から、対象者名簿を作成
 - ・ **実態調査本部（サポートセンター）の設置**
 - 電話応対、回収票の点検整理などを行う本部
 - 個人情報扱うため、**セキュリティ管理が重要**（感染予防も）
 - ・ **調査物件、マニュアル等の作成**
 - 調査票＋調査物件を作成する
（宛先は個人情報となるため、印刷会社にも個人情報保護方針が適用される）
 - 電話応対、エディティング・コーディングなどのマニュアルを作成する
 - ・ **実施スケジュールの設定**
 - 調査日やロットなどを設定（調査日を複数設定）
例：仙台PTは、3回（3ロット）＋予備の4回に分けて調査

2) 実態調査の準備

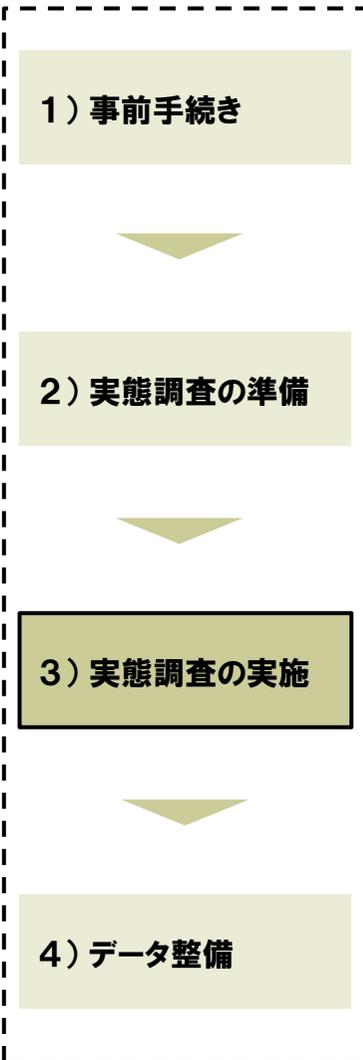
▼調査物件（仙台PT調査の例）



▼調査物件

- ①：発送用封筒
- ②：挨拶状
- ③：調査説明資料
- ④：調査票
- ⑤：調査票記入例
- ⑥：返送用封筒

3) 実態調査の実施



▼ 概要

✓ 秋期（10～11月）に実態調査を行う。

- **実態調査の実施と工程管理**
→調査票の発送、電話対応など
→回収状況を確認しながら、**予備票の投入を検討、判断**
- **広報の実施**
→調査の認知度、理解度を上げ、回収率の向上を目指す
（届いたときに、「あ、あの調査ね。回答しよう。」となるのが理想）
→特に、実態調査の**1か月前～実施期間中**は集中的に実施

● 主な広報例

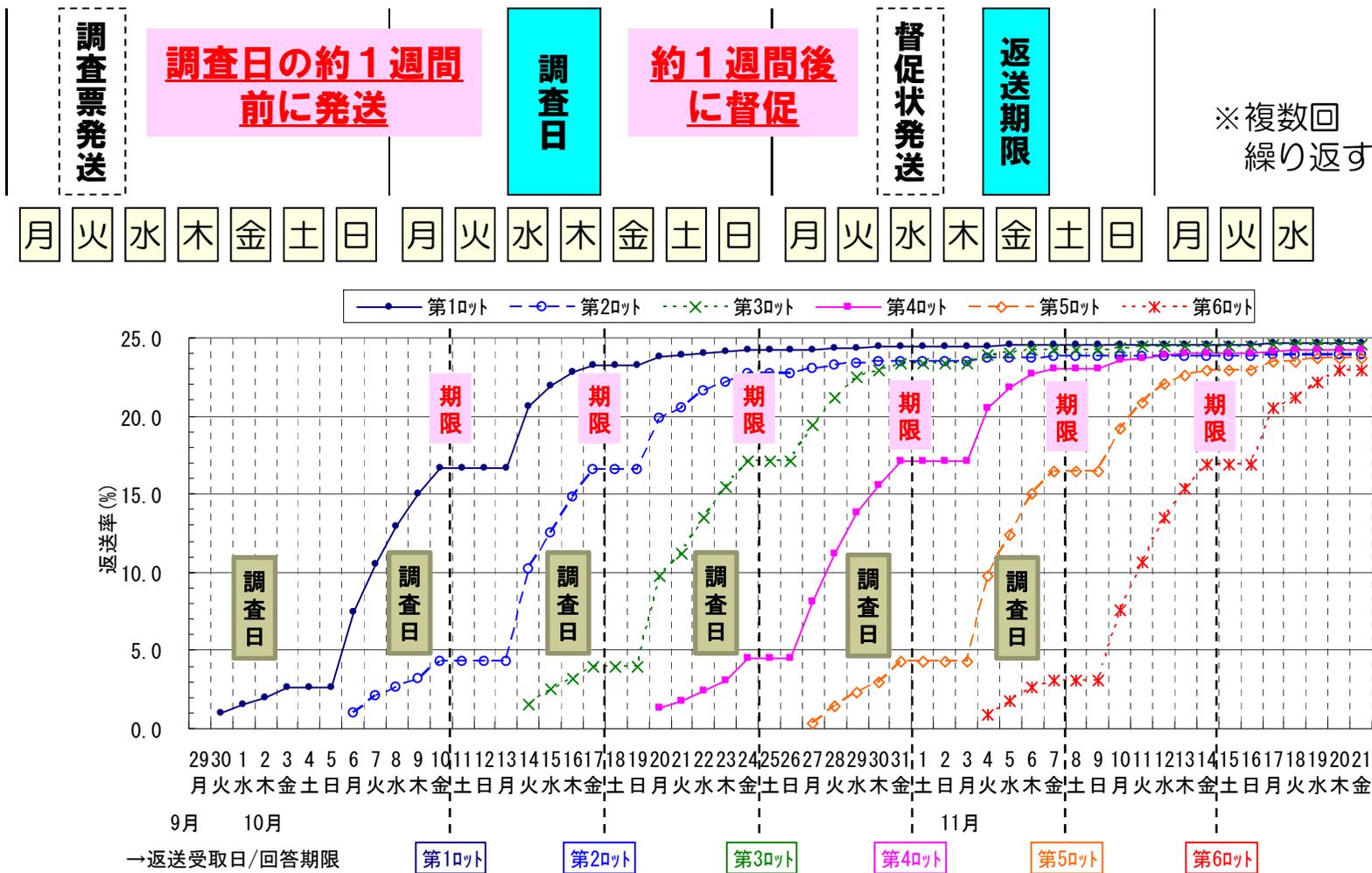
- HP
- ポスター
- 市町村等広報誌
- テレビ、ラジオ
- 新聞 など



3) 実態調査の実施

【ロットを複数分ける理由】
 ・秋期の平均的な1日のデータとする（天候など含めて）
 ・調査票の返送や電話問合せのピークを下げる

▼ 郵送調査による複数回配布の例



3) 実態調査の実施

▼広報の例

山形市と周辺4市町(天童市・上山市・山辺町・中山町)では、10月から11月にかけて、
山形広域都市圏パーソントリップ調査を行います。

あなたの「1日」の動きをお聞かせください。

例えば

1 パーソントリップ調査って一体なんだろう?

「どのような人」「いつ」「どこからどこへ」「なんの目的で」「どのような交通手段で」移動しているかを調べるアンケート調査です。
調査結果は、交通計画・都市計画・防災・福祉などの具体的な政策の立案に役立ちます。

3 調査対象に選ばれたら何をすればいいの?

調査対象となった世帯には、郵送で調査票が送られます。調査日は10月から11月にかけての平日と日曜日の2日間が指定されますので、同じ家にお住まいの5歳以上の方全員が調査日における移動について、回答をお願いします。調査票に記入して郵送いただくか、インターネット(PC)で回答していただくか、どちらかを選択できます。

調査票に記入して郵送 インターネットで回答

2 誰が調査の対象になるの?

住民基本台帳から無作為に選ばれた約3万世帯の方が対象となります。

調査へのご協力をお願いします。

山形広域都市圏パーソントリップ調査は、山形市が主体となって実施するもので、山形県では初めて行われる大規模調査です。全住民のうち、およそ4人に1人の割合で調査対象に選ばれます。今後のまちづくりを考える上で大変重要な調査になりますので、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

お問い合わせ 山形市まちづくり推進部 都市政策課 ☎023-641-1212(内線517)
※この調査は将来の交通計画や住みよいまちづくりを考える大切なデータとなります



PICK UP TOWN!
VOL.05 ▶ 山形市・天童市・上山市・山辺町・中山町

ご回答をよろしくお願ひします!

住 民の動きを総合的にとらえることができる調査を山形県内で初めて行います! 調査結果は、交通・都市計画だけではなく、観光・健康・農林・環境・防災・福祉など、様々な分野で役立つ調査になります。ご協力よろしくお願いいたします。

山形広域戦隊パレンジャーのみなさん

4) データ整備



▼概要

- ✓ 調査結果をデータ化、整備し、トリップ調査のマスターデータを作成する。
 - **エディティング・コーディング**
→回答内容の点検、修正と、日本語回答の数値化
 - **データ入力**
→調査票の回答結果をデータ化
 - **データチェック・修正**
→データ化された調査結果をシステム等でチェック
→論理的矛盾、異常値がないよう、エラー部分を修正
 - **拡大処理**
→サンプルデータが都市圏全体となるよう拡大係数（重み）を付与

4) データ整備

居住地の性別年齢のほか、
運転免許有無や従業従学地なども考慮した
拡大手法も存在

▼拡大係数のイメージ（夜間人口に合わせた例）

母数
(夜間人口)

A地域の
20~25歳の人口



... 600人

回収
サンプル数

A地域の
20~25歳の回収数



... 30人

$$\text{拡大係数} = 600\text{人} \div 30\text{人} = 20$$

※拡大係数**20**とは、1サンプルを拡大後に**20人分**として扱うことである

3. 企画・準備と実態調査のポイント

“発注者視点”のポイント

1) 企画・準備のポイント

▼ 3年間の調査の「目的と成果」の明確化＋共有化

- ✓ 多くの主体が関わる中、目的と成果（ゴール）を明確化する
- ✓ 目的と成果を関係主体と共有化
 - 目的と成果に合致した実態調査を含む3年間の計画を企画する
(従来の調査やアウトプットにこだわらず、**新たな取り組みも含めて**)

新たな取り組みの考え方については、
「講習4・講習5」でも紹介

▼ 市町村、交通事業者等との連携

- ✓ 実態調査を行う上で「住基台帳データの活用」「広報活動」は必須事項
 - いずれも**都市圏市町村の協力**が必須
(特に住基台帳データは、市町村によって利用条件が異なるため、事前調整が重要。**0年目のうちに調整＋文書取り交わしも。**)
- ✓ 交通事業者にも、既存データの活用や広報などで協力を依頼

2) 実態調査のポイント

▼ 秋期（10～11月）に向けた入念な準備が大切

- ✓ 住民基本台帳からの調査対象者名簿の作成（可否、**個人情報対応**）
- ✓ サポートセンターの設置（体制、個人情報管理）
- ✓ 回収率向上に向けた対応（広報や物件の工夫（サインなど調査の信頼性の上がる工夫）） など

⇒ 円滑な調査の実施に向けて、入念な準備が大切

特に関係主体との調整は
発注者（行政）が主体的に動く

▼ 市町村調整など調整に十分注意して、スケジュール管理を徹底することが大切

- ✓ 実態調査は、準備等で市町村や交通事業者などとの調整が多く、当初の想定や予定通りにいかないことが多い。
- ✓ さらに回収率が想定より低い地域が出てくるなど、予定通りいかないことも。

⇒ スケジュール管理を徹底すること、また、**少しでも疑問に思ったことは、事前にしっかり確認**し、対応していくことが重要（行政側の視点が重要）

4. まとめ

まとめ

- ✓ 実態調査は、業務委託が基本になるが、通常の委託業務と比較すると、**発注者側が主体的に動く場面が多い**
 - ⇒ 総務省申請、関係者調整（広報、抽出名簿作成など）
- ✓ 実態調査は、関係者調整など調整事項が多いため、「当初の想定や予定通りにいかない」ことが多い。スケジュール管理を徹底しつつ、少しでも疑問に思ったことは、その時点で**迷わず確認**し、対応していくことが重要
 - ⇒ コンサルの専門的な視点に加えて、行政側の視点も重要